



Network Japan

持続可能な世界実現のためのお役立ちシリーズ

# CSR調達 セルフ・アセスメント・ ツールセット(回答の手引書)

2020年6月5日

一般社団法人 グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン  
サプライチェーン分科会 (2019年度)

## 目次

はじめに	3
1. 目的	4
2. 共通SAQ* (エクセルシート) の構成	4
3. 設問の構成	4
4. 回答方法	5
5. 評価基準	6
6. 集計結果	7
7. 記入事例	7
8. よくある質問	7
本分科会 参加企業・団体一覧 (2018年度～2019年度)	9

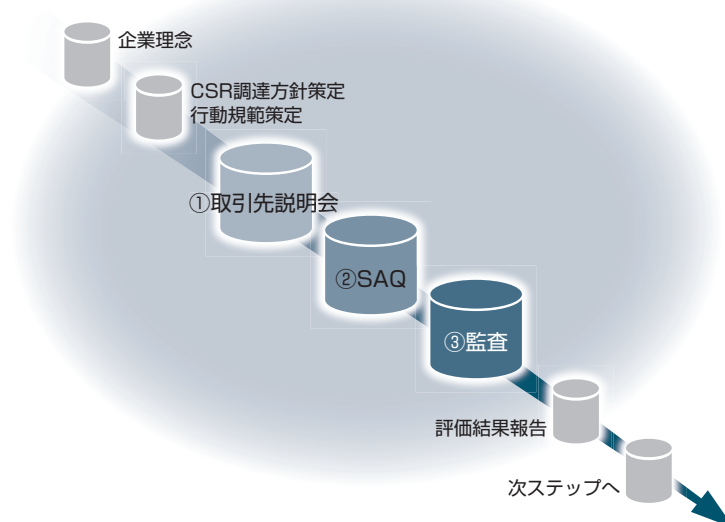
\*注:GCNJ版「CSR調達 セルフ・アセスメント・質問票」を意味します。

## はじめに

グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(以下、GCNJ)のサプライチェーン分科会(以下、本分科会)では、2008年にGCNJ参加企業の中から11社が集まり結成され、2013年に「サプライチェーンにおける望ましいCSR活動のあり方ーサプライチェーン分科会からの提案ー」(以下、提言書)を発行してきました。

(参照: <http://www.ungcjin.org/activities/topics/detail.php?id=99>)

図1. あるべき「CSR調達」における重要プロセス



※「CSR活動のあり方」より抜粋、一部修正

その後、CSR調達の向上と上記3つの重要プロセス(①取引先説明会 ②SAQ ③監査)に必要な環境整備を効率的に進めるための情報共有プラットフォームを提供するため、2014年度より議論を重ね、その核となる「CSR調達セルフ・アセスメント・質問票」(以下、共通SAQ)を2017年に開発し、「CSR調達セルフ・アセスメント・ツールセット」として発行しました。

(参照: <http://www.ungcjin.org/activities/topics/detail.php?id=217>)

このたび、さらにCSR調達を進めやすくするため、共通SAQ回答の手引きを製作しました。本書は、共通SAQの回答がよりスムーズとなるよう、本分科会で、蓄積されたノウハウや資料を分かりやすくまとめたものです。本書が回答の参考となり、各社・団体において「CSR調達を実践しやすい環境」の整備につながることを願っています。

### 本手引書の対象者イメージ

本手引書は、以下の対象を想定しています。

対象者	狙い
<ul style="list-style-type: none"><li>SAQで自社のセルフ・アセスメントを行う者</li><li>CSR推進者</li><li>調達担当者、調達責任者(依頼側)</li><li>回答担当者、回答責任者(回答側)</li></ul>	本SAQへ回答する際に、本書がその手引きとなることを狙っています。

## 1. 目的

本「回答の手引書」は、CSR調達活動をより進めやすくするため、共通SAQ回答の際の、判断材料となるポイントを明記しています。自社で回答する、またはお取引先様へ説明する際に、回答レベル選択の判断に迷った場合、各レベルの取組み水準を認識することで、スムーズでバラつきのない回答を可能にすると共に、各設問項目の取組み課題や改善の方向を理解することを目指しています。

(また、共通SAQの本質問表の目的については、「CSR調達 セルフ・アセスメント・ツール –ご利用にあたって–」も併せてご参照下さい。)

## 2. 共通SAQ (エクセルシート) の構成

共通SAQの構成は以下の通りです。

- シート 1 : 記入要領
- シート 2 : CSR調達 セルフ・アセスメント質問表 Ver.1 (回答記入)
- シート 3 : 用語の説明
- シート 4 : 集計結果

## 3. 設問の構成

共通SAQの設問項目は大きく以下の9つの大項目に分けています。

(大項目)

- I. コーポレートガバナンス
- II. 人権
- III. 労働
- IV. 環境
- V. 公正な企業活動
- VI. 品質・安全性
- VII. 情報セキュリティ
- VIII. サプライチェーン
- IX. 地域社会との共生

そして大項目毎に具体的な設問の内容を中項目として設けています。

さらに中項目は下記小項目 (2~5つの確認ポイント [設問により変動]) について回答する事になっています。

また、回答の視点は下記の通りです。

(小項目)	(回答の視点)
■ 法律の認識	法規制等の認識・理解と違反の有無を確認している
■ 方針	経営により承認された方針がある
■ 体制	管理責任部署または責任者がいる
■ 取り組み結果の確認	目標・実施計画を持ち、達成度合いを評価する仕組みがある
■ 是正	達成度評価結果に基づき、必要に応じて是正する仕組みがある

## 4. 回答方法

- 必要項目（会社名・担当部署名・業態・対象範囲）等は、必ず記入漏れのないようにして下さい。
- 回答に際しては、共通SAQにご記入いただき、自己評価願います。原則、全設問について回答下さい。
- 各小項目について、上記の視点から、「Level 1」、「Level 3」、「Level 5」の3段階での自己評価をお願いいたします。それぞれの「Level」の評価基準は、項目毎に表記されており、下記「5.評価基準」の項を参考にして下さい。
- 各設問の回答記入欄のプルダウンから、現状に最も近いLevelを選択して下さい。
- 現在、共通SAQ（Ver.1）では「Level 2」、「Level 4」の回答は未設定の為、選択できません。
- 用語や語句でわからないところがあれば、共通SAQ「シート3：用語の説明」をお読み下さい。また、「CSR調達セルフ・アセスメント・ツール よくある質問と回答」も併せてご参照下さい。
- 一部の設問について、業種や事業形態により、設問が当てはまらない場合は、プルダウンより「該当しない」を選択して下さい。「該当しない」が選択された場合は、その設問を除外した母数（満点）での得点率が計算され、スコアに影響を与えません。万一「該当しない」を選択しないと、スコアが0点になる為、ご注意下さい。
- 大項目毎に自由記入欄を設けていますので、回答内容に補足説明があればご記入下さい。  
（例：方針やガイドライン、規程の名称、近年の取り組み事例、Level選択の理由など）

## 5. 評価基準

- 共通SAQの回答「Level」の評価基準について、ポイントを下記に追記していますので、判断材料にして下さい。
- レベル選択の判断が迷う場合は、上位レベルの到達が明確には判断出来ないと言う意味で下位レベルを選択下さい。そうする事で当該項目の取組む課題や改善の方向が明らかになります。

### 回答の手引き

#### 評価基準

2020/5/14現在

- 本SAQのそれぞれの「Level」の評価基準について、ポイントを下記に追記していますので、判断材料にして下さい。
- 上位レベルは下位レベルを満たしていることが前提条件となります。
- レベル選択の判断が迷う場合は、上位レベルの到達が明確には判断出来ないと言う意味で下位レベルを選択下さい。そうする事で当該項目の取組む課題や改善の方向が明らかになります。

小項目	設問	回答記入	回答 Level1	回答 Level3	回答 Level5
法律の認識	当該項目に関する国内外の法規制や社会的規範/業界規範および規格を認識していますか。	表示文	認識していない	認識しているが、違反の有無を確認できていない	認識しており、違反の有無を確認している
		ポイント	・全てはわかっていない。 ・必要な法規制や規範、規格等の範囲を特定できていない。(法令の洗い出しまでできていない)	・対象範囲を特定し理解しているが、法改正等必要に応じて(何の見直しまで行っていない。 ・違反有無を確認する取組みや機会がない。	・当該項目に関する国内外の法規制や社会的規範/業界規範および規格を洗い出し、定期的に(何を)更新されている。 ・違反有無を確認する取組みや機会がある。
		要件(有無)「認識のレベル」	—	対象範囲の特定及び理解	違反の有無の確認機会の存在
方針	当該項目に関する方針やガイドラインを定めていますか。	表示文	いずれも定めていない	いずれか、もしくは両方を定めている	定めており、適時適切に見直している
		ポイント	・存在していない。 ・文書がない。 ・中項目の内容に関連する文書がない。	・経営層が承認した文書である。 ・文書が一方のみある。 ・中項目の内容に関連する文書になっている。 ・社外に向けて公開している。	・文書化し適時適切に見直しをしており、改正履歴が残されている。 ・法律や全社方針等の上位概念と整合が取れている。 ・中項目の内容に関連する文書であり見直しや周知されている。
		要件(有無)「定める」レベル	—	企業としての公式な文書の存在	見直しの存在
体制・責任	当該項目に関する責任者と体制(責任/推進部署)を明確にしていますか。	表示文	明確ではない	明確にしている	明確にしており、適時適切に見直している
		ポイント	・体制・責任者が明確になっていない。 ・該当項目の責任者と部署が分らない。 ・体制・責任者が存在していても、体制表・役割分担表など書面化されていない。	・体制・責任者がいる。 ・体制表、役割分担表など書面化されている。	・異動や組織変更のタイミング等で見直している。 ・改訂履歴があり運用されている。
		要件(有無)「明確」のレベル	—	・体制表や役割分担表の存在	見直しの存在
取組み結果の確認	当該項目に関する取組みはありますか。また、取組み結果を確認する仕組みはありますか。	表示文	取組みがない	取組みはあるが、結果を確認する仕組みはない	取組みがあり、結果を確認する仕組みもある
		ポイント	—	<取組の具体例> ・社内研修の実施 ・外部セミナーへの参加 ・社内イントラネット上の掲示板に掲載 ・社内報に掲載	・監視、評価(合否判定)ができていない。 ・形だけになっていない。正しく運用されている。 ・集計結果や報告書、議事録等が残されている。
		要件(有無)「仕組み」のレベル	—	取組の実施	取組み結果の確認
是正	当該項目に関する取組みを必要に応じて是正する仕組みはありますか。	表示文	仕組みがない	仕組みがある	仕組みがあり、適時適切に見直している
		ポイント	—	・取組み結果を評価し、課題抽出を行い、是正に繋げている。(「取組み結果の確認」でレベル5としない限り、当項目でレベル3になることは無い。)	・適時適切に見直している。 ・PDCAを回すための責任者がいる。 ・見直しルールがあり運用されている。
		要件(有無)「仕組み」のレベル	—	文書化された仕組みの存在	見直しの存在

## 6. 集計結果

記入完了後、シート4:集計結果に全大項目の集計結果がレーダーチャートで表示されます。貴社取組みの自己診断にお使い下さい。なお、未回答の設問がある場合、評価が低くなりますので、記入漏れのないようご注意ください。

## 7. 記入事例

回答記入欄のプルダウンリストから該当する回答を選択します。

大項目	中項目	小項目	設問	回答記入	回答 Level1	回答 Level3	回答 Level5
Ⅵ. サプライチェーン(44)	1. サプライチェーンに対する基本姿勢 企業は、製品・サービスを生み出す事業プロセスにおいて、社会的責任を果たすことが求められる。自社のみならずサプライチェーンを通じてCSR調達を实践すべく、CSR調達方針の制定と社内外への周知・浸透が望まれる。従い、自社のサプライヤーや納入元に対して本SAQの各項目に記載する事項についての周知、順守の浸透を实践する必要がある。  サプライチェーンに関する主な関連法規： EU RoHS指令(45)、REACH規制(28)、英国現代奴隷法(11)、カリフォルニア州サプライチェーン透明法(46)	法律の認識	当該項目に関する国内外の法規制や社会的規範/業界規範および規格を認識していますか。	3	認識していない	認識しているが、違反の有無を確認できていない	認識しており、違反の有無を確認している
		方針	当該項目に関する方針やガイドラインを定めていますか。	3	いずれも定めていない	いずれか、もしくは両方を定めている	定めており、適時適切に見直している
		体制・責任	当該項目に関する責任者と体制（責任/推進部署）を明確にしていますか。	5	明確でない	明確にしている	明確にしており、適時適切に見直している
		取組み結果の確認	当該項目に関する取組みはありますか。また、取組み結果を確認する仕組みはありますか。	3	取組みがない	取組みはあるが、結果を確認する仕組みはない	取組みがあり、監査を実施している
		是正	当該項目に関する取組みを必要に応じて是正する仕組みはありますか。	3	仕組みがない	仕組みがある	仕組みがあり、適時適切に見直している
	2. 紛争や犯罪への関与の無い原材料の使用（紛争鉱物(47)への取組み） コンゴ民主共和国およびその周辺国等の現地武装勢力による非人道的行為に関わる紛争鉱物である金（Au）、タンタル（Ta）、タングステン（W）、錫（Sn）を購入・使用の防止および、サプライヤーへの調査・確認を行う。  主な関連法規：ドッド・フランク法(48)	取組み結果の確認	当該項目に関する取組みはありますか。また、取組み結果を確認する仕組みはありますか。	該当しない	取組みがない	取組みはあるが、結果を確認する仕組みはない	取組みがあり、監査を実施している
		是正	当該項目に関する取組みを必要に応じて是正する仕組みはありますか。	3	仕組みがない	仕組みがある	仕組みがあり、適時適切に見直している
自由記入欄	当該項目に関する貴社の取組み等、補足したいことがあればご記入ください。						

補足事項あればご記入ください。

設問に応じて「該当なし」回答を設定しています。

## 8. よくある質問

### Q 質問①

設問の中で業種や事業形態が当てはまらない場合、『該当しない』を選択するよう記入要領に記載がありますが、回答選択肢の中に『該当しない』という項目がありません。

### A 回答①

全く該当しないが、回答選択肢の中に『該当しない』という項目がない場合、その項目は回答していない旨を提出先担当者までお伝えいただき、考慮の上判断される様に、大項目毎にある「自由記入欄」を有効にご活用ください。

#### ポイント

全く該当しないからといって「スコア1」を選択せず、正しい評価になるよう下記に注意してください。

- ・「該当しない」の選択肢がある場合 ➡ その選択肢を選択する。
- ・「該当しない」の選択肢がない場合 ➡ 無回答で回答し、自由記入欄にその旨記載し、提出先担当者へ配慮してもらってください。

**Q** 質問②

4.II.人権「4.先住民の生活および地域社会の尊重」にある、「先住民」とは具体的に何（誰）を指しますか？

**A** 回答②

設問説明の後半部分に、「先住民に限らず地域社会への配慮」ということが書かれていますので、先住民や少数民族が不在で該当しない場合でも、地域社会への配慮という観点で回答してください。

先住民や少数民族が居住する地域で事業を行う企業にとって、固有の文化や歴史を尊重し、現地の法令だけでなく国際基準を守り先住民の権利に配慮することが重要な課題となっており、また、先住民問題に限らず、影響を受ける地域社会に配慮して責任ある事業運営を行うことは操業権の維持や許認可取得のためにも不可欠であると考えています。

以上



## 本分科会 参加企業・団体一覧（2018年度～2019年度）

### <参加企業（五十音順）>

味の素株式会社	信越化学工業株式会社
アンリツ株式会社	住友化学株式会社
イオン株式会社	住友商事株式会社
出光興産株式会社	住友理工株式会社
伊藤忠商事株式会社	住友林業株式会社
株式会社イトーキ	セイコーエプソン株式会社
内海産業株式会社	セガサミーホールディングス株式会社
エーザイ株式会社	積水ハウス株式会社
江崎グリコ株式会社	双日株式会社
NPO 法人 ACE	第一三共株式会社
大阪ガス株式会社	ダイキン工業株式会社
大塚ホールディングス株式会社	大日本印刷株式会社
沖電気工業株式会社	株式会社ダイフク
オリンパス株式会社	株式会社大丸松坂屋百貨店
花王株式会社	大和ハウス工業株式会社
川崎重工業株式会社	株式会社タムロン
極東開発工業株式会社	千代田化工建設株式会社
キリンホールディングス株式会社	DIC 株式会社
株式会社クレアン	DNVGL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社
学校法人国際学院	帝人株式会社
国際石油開発帝石株式会社	帝人フロンティア株式会社
コニカミノルタ株式会社	テルモ株式会社
コマニー株式会社	一般財団法人電気安全環境研究所
一般社団法人ザ・グローバル・アライアンス・フォー・サステイナブル・サプライチェーン	東急株式会社
サッポロホールディングス株式会社	東急不動産ホールディングス株式会社
JSR株式会社	東京ガス株式会社
JXTGホールディングス株式会社	TOTO株式会社
株式会社ジーエス・ユアサコーポレーション	DOWAホールディングス株式会社
シスメックス株式会社	凸版印刷株式会社
シチズン時計株式会社	中日本高速道路株式会社

ナブテスコ株式会社  
株式会社日経ビーピーコンサルティング  
日産化学株式会社  
日清オイリオグループ株式会社  
日総工産株式会社  
日本ガイシ株式会社  
日本工営株式会社  
株式会社日本航空  
一般財団法人日本食品分析センター  
日本新薬株式会社  
日本ユニシス株式会社  
株式会社ノーリツ  
株式会社日立製作所  
ファイバーフロンティア株式会社  
フォスター電機株式会社  
株式会社フジクラ  
富士ゼロックス株式会社  
株式会社プリプレス・センター  
丸紅株式会社  
三井化学株式会社  
株式会社三菱ケミカルホールディングス  
三菱自動車工業株式会社  
株式会社三菱総合研究所  
株式会社三菱UFJフィナンシャルグループ  
みらかホールディングス株式会社  
明治ホールディングス株式会社  
ヤマトホールディングス株式会社  
ライオン株式会社  
株式会社りそなホールディングス

以上、89社

#### <免責事項>

本書は、GCNJで作成したCSR調達の啓発を目的とした発行物です。法律の許す範囲で、GCNJおよびそのメンバー、従業員、および代理人は、本書の内容に依拠した行為や不作為によるいかなる結果にも、本書の内容に基づいたいかなる決定についても、一切の損害賠償責任、応答責任、注意義務を受諾するものではありません。

#### <注意事項>

GCNJ加盟企業に問わずご利用いただけるものとしており、ご利用に際してGCNJやそのメンバーに対する特段の断りは不要です。各組織・企業の責任の下でご利用いただき、営利目的での使用、無断転載、販売等はお断りします。

持続可能な世界実現のためのお役立ちシリーズ

#### **CSR調達 セルフ・アセスメント・ツールセット (回答の手引書)**

---

発行日 : 2020年6月5日 第1版 発行

---

一般社団法人 グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン

著 者 : サプライチェーン分科会

発 行 : グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン事務局

---

表紙・裏表紙 富士ゼロックスシステムサービス株式会社

デザイン : コンテンツソリューションセンター

お問合せ先 : 一般社団法人 グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン

E-mail : [gcjnoffice@ungcjin.net](mailto:gcjnoffice@ungcjin.net) URL : <http://www.ungcjin.org>

その他 : 禁転載 非売品

---

「CSR調達 セルフ・アセスメント・ツールセット (回答の手引書)」に関する問い合わせは

---

**一般社団法人 グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン**

E-mail : [gcjnoffice@ungcjin.net](mailto:gcjnoffice@ungcjin.net) URL : <http://www.ungcjin.org>

---